



今号では臨床シミュレーションセンター（Clinical Simulation Center:以下 CSC）の活動に度々ご協力頂いております小児科・周産母子センターの野原先生に原稿を執筆していただきました。野原先生は、新生児蘇生講習会におかれましてシミュレーション教育の実践経験を豊富に積まれております。シミュレーション教育にあまり馴染みのない方や、これから取り組もうとされている方におかれましてはとても参考になることと思います。

「失敗」体験から学ぶ ～より良い NCPR 講習会を目指して～

「生まれる」という一瞬は長い一生の中で最も死の危険に曝される瞬間であり人生最初の試練です。この時、母児に何らかの問題が生じると児は容易に仮死などの危険な状態に陥り、遅延なく適切な蘇生が受けられなければ死亡するか重篤な障害を残すこととなります。このような事態はしばしば突発的に発生し、現場の産科医、助産師らが速やかに適切な蘇生を行うことが求められるのです。こうした背景のもと「周産期医療に携わる全スタッフが国際標準に則った新生児心肺蘇生法を習得し、全分娩に新生児蘇生を開始できる要員が少なくとも一人、新生児専任で立ち合う体制を整備する」ことを目標として、2007年より日本版新生児蘇生法（Neonatal Cardiopulmonary Resuscitation、以下、NCPR）普及事業が始まりました。ここ旭川でも、旭川医大病院周産母子センターが中心となり年数回の講習会を開催しており、現在までに、小児科・産婦人科医師、看護師・助産師等、のべ 220 名の方々が講習会を修了され地域の周産期医療向上に尽力されています。しかし一方で「講習会を受けただけで誰でもすぐに自信を持って新生児蘇生をできるわけではない」という声もよく耳にします。もちろん NCPR のような技能は講習会を受けただけで終わりというものではありません。そもそも短い講習時間で全ての学習項目を網羅することは不可能ですし、その場限りの知識は月日とともに驚くほど急速に失われていくものです。

学習には様々な方法がありますが、実際の「経験」から学ぶことは非常に効果的です。もちろん成功体験は良い経験となり次への動機付けになりますが、「失敗」から学ぶことはより強く深く印象付き、しばしば一生忘れられない経験となります。実際の医療現場でもそうですが、それは本来許容されるものではありません。NCPR 講習会のようなシミュレーション教育では患者に危害を加えずに「失敗」から学べる点が大きな特徴の一つです。「シミュレーション教育」に不慣れな方はインストラクターから受動的に“教わる”ことを期待している場合が多いのですが、受講者は失敗体験を振り返り自らの問題点や課題に気付くことで、より効果的な“学び”の機会を得られます。受講者自らが学習項目に気付き“学ぶ”体験をすることが最も重要であり、インストラクターはその過程を促し補助することが役割です。講習会終了後、日々の医療現場のなかでも継続的に、自ら“振り返り、気付き、学ぶ”ことが蘇生技能の維持、向上に繋がりますし、我々インストラクターとしても受講者がより効果的な“学び”の体験が得られるよう、さらなる創意工夫が求められていると思います。

少子高齢化が止まらぬ日本、これから生まれ来る子供たちの笑顔のために、こうした NCPR 普及活動が少しでも役立てばと切に願います。



旭川医科大学小児科・周産母子センター
野原 史勝

（←NCPR 講習会での一枚
上段の左から 2 番目が野原先生）

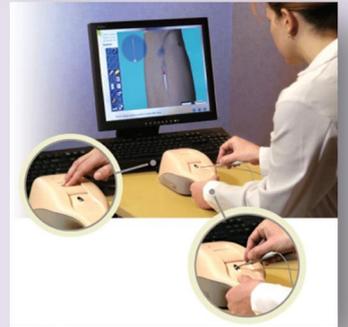
CSCで行われた活動を報告します

- 7月16日 セミナ「心電図モニターの見方」
講師：第一内科
杉山 英太郎 先生
- 7月24日 セミナ「微生物検査-グラム染色の基礎知識と実践について-」
講師：検査部・輸血部
臨床検査技師 渡 智久 さん
- 7月31日 オープンキャンパス
- 8月7日 スーパーサイエンスハイスクール(札幌西高校)訪問実習
- 8月21日 セミナ「透析への基礎とアラームへの対処」
22日 講師：臨床工学部門
臨床工学技師 宗万 孝次 さん
- 8月23日 旭川附属中学3年生の職場体験
- 9月17日 セミナ「骨髄路確保・エコーガイド下中心静脈穿刺」
講師：救急科
藤田 智 先生、丹保 亜希仁 先生
麻酔科
黒澤 温 先生、山本 邦彦 先生
- *セミナーにご協力くださった皆様に感謝を申し上げます。

シミュレータ紹介 バーチャルI.V

バーチャルI.Vは、末梢静脈確保手技にまつわる総合的なトレーニングを目的としたインタラクティブな学習システムです。症例が用意されており、トレーニング実施後には自動結果レポート機能により多角的な評価が得られます。もちろんシミュレータなので、素材、形態、機能などの面で、人体を完全に再現するものではありません。しかし、こうしたシミュレータを用いることで何度も繰り返した技術トレーニングが可能です。

シミュレーション学習は、体験から得られる知識と技術を統合し、振り返ることによって、実践力の向上につながると言われています。どうぞ体験にいらしてください。



セミナーのお知らせ

CSCでは、ハンズオンセミナーや講演会を開催しております。

参加は研修医が優先となりますが、ご希望される方はどなたでも参加することが出来ます。事前に申し込みが必要となりますので、参加を希望される方は、CSCまでメールでお申込み下さい。その際、メールには参加を希望するセミナー、所属と氏名、連絡先の記載をお願いいたします。

【定期開催中】

講演会

テーマ：救急外来/一般外来の高齢者診察の注意点
(内容は毎回変わります)

講師：救急科/第二外科 松坂 俊 先生

日時：10月22日(火)

(2週おき 火曜日 19時～)

*8～10月に行われた松坂先生の講演内容

- ・一般/救急外来の基礎、適切な病歴聴取と鑑別方法
- ・抗菌薬の基礎知識①・②・③
- ・血液培養についての知識～抗菌薬の実践問題演習

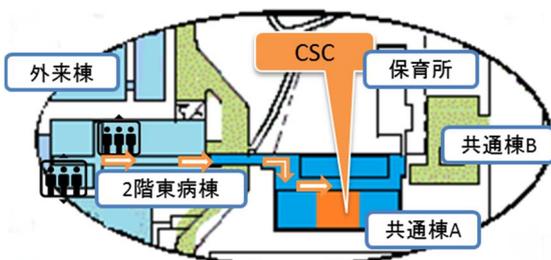
【11月開催予定】

ハンズオンセミナー

テーマ：「Difficult Airway Management」

講師：救急科 鈴木 昭広 先生

*詳細は決定次第、ホームページに掲載します。



【お問合せ先】

旭川医科大学 臨床シミュレーションセンター

連絡先 : 内線 2860 PHS : 7580

E-mail : skillslab@asahikawa-med.ac.jp

担当 : 萩田

スタッフ常駐時間 : 平日 8:30～17:30

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/simu/AMUSIMU/index.html>